

【国際学科 英語基礎学力型】

[ I ]

[ 1 ]	ペットは飼い主が健康になるのを促進するだけでなく、愛情や友情をくれ、飼い主の自尊心を高めてくれる。			
[ 2 ]	例えば、ホームレスの避難施設でボランティアをする人たちは、ボランティア活動をすることで、自分自身の問題から焦点をそらしたり、自分の持っているものに感謝できるようになることに気づく。			
[ 3 ]	(1)	(2)	(3)	(4)
	b	c	d	a
[ 4 ]	1.	2.	3.	4.
	b	b	c	d

[ II ]

1.	2.	3.	4.	5.
a	b	c	d	d

### [Ⅲ]

本文によれば、菜食主義者が動物の肉を食べない主な理由は、食用肉の生産が動物の自由や生の選択肢を奪うということ、畜産が地球環境に多大な負荷を与えるということの2つである。狩猟生活の時代に比べ動物に対する理解が深まってきている状況の中で、人類が肉食を続けてよいのかどうかは問題であるとのことだ。

私は、今後の肉食を減らしていくべきとの立場をとる。第1の理由は、動物の痛みや苦しみに対する我々人間の共感が大きくなれば肉食に対する嫌悪感も強まる可能性もあるからである。第2の理由は、栄養学の観点からみて、肉食から得られるタンパク質・カルシウム・ビタミン・脂肪などは、植物性の食品から得ることができるからだ。

想定される第1の反論は「農作物に依存しすぎると気候や自然災害の影響で凶作の年に食料不足になる」というものだが、そうした懸念に対しては、備蓄と、災害に強い品種の開発で対応すべきだと考える。第2の反論として、「畜産業者が失業する」という意見がある。だが、乳製品や毛織物の原料の採取という形での畜産業は残るはずであり、さらに穀物・野菜・果物・香辛料の栽培と収穫、植物性食品の加工生産、輸送流通、販売供給など、菜食へのシフトとともにニーズが増大する業種への転職支援制度を公的に整備すればよい。第3の反論として、本文でも肉食を肯定する根拠として指摘されている「食に関わる嗜好や文化的問題」があるが、個人の嗜好の範囲ならば、獣害を防ぐための狩猟によって得られた肉などを高価な嗜好品として販売すれば対応可能だ。一方、地域文化・民族文化・宗教文化としての肉食に関しては、地球上の生態系を大きく変動させないかどうかの調査をふまえ、文化伝統の維持のため必要最小限の生命を犠牲にするという形で認めるのはどうだろう。

以上で述べたように、今後、人類は肉食を減らしていくべきだと私は考える。(778字)